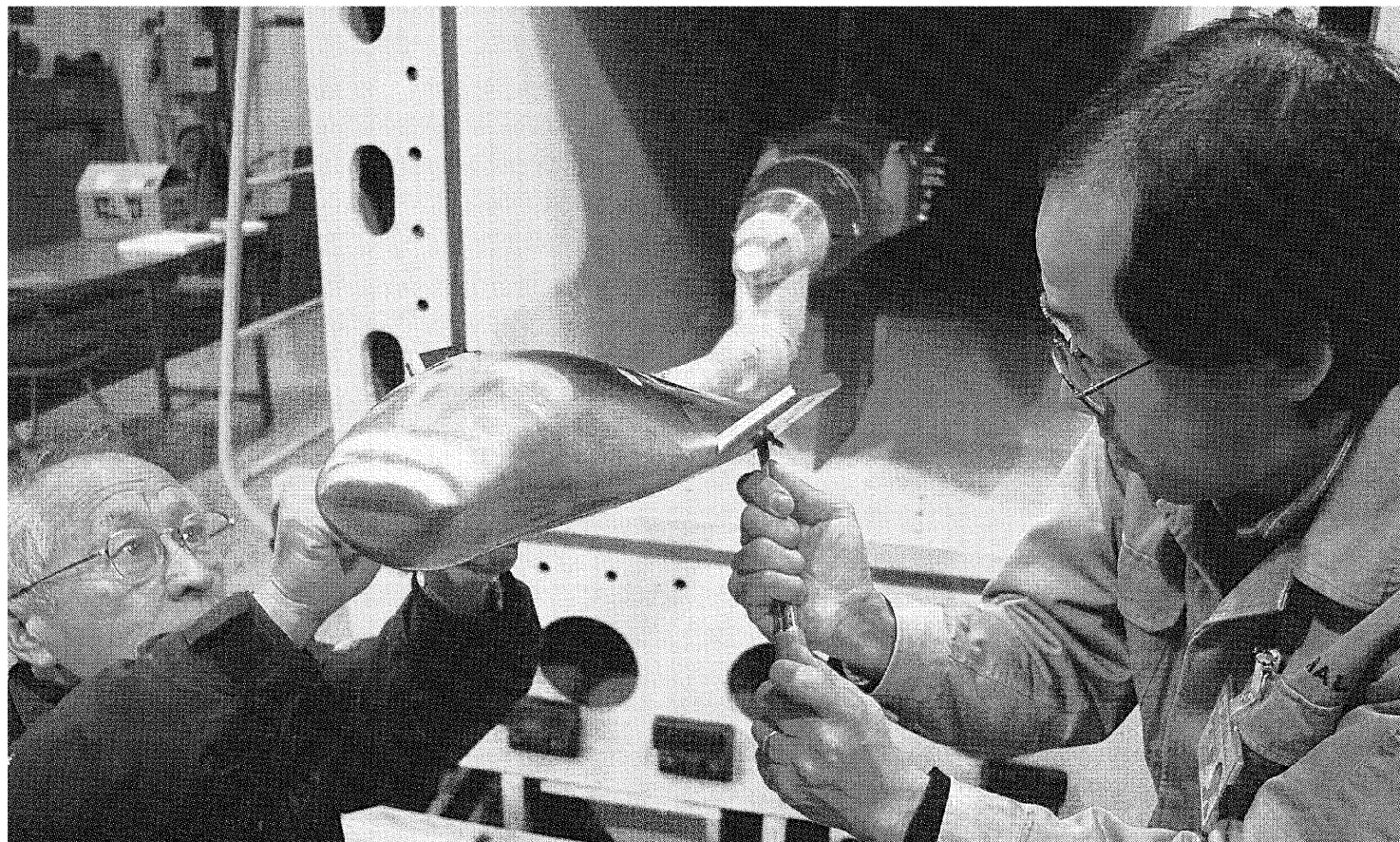


着実に近づく 宇宙と十勝

宇宙往還機などの基礎データを集積するため、航空宇宙技術研究所では風洞実験が繰り返行われている



高さ3・5メートル、まるで巨大なイカを思わせる衛星が今夏、日本の誇るH2Aロケットで鹿児島県種子島宇宙センターから打ち上げられる。国内では初となる実用型無人宇宙実験システム「USERS」のことだ。胴体部分の羽(太陽電池パドル。地上では折り畳み状態)を広げると、横幅は15・5メートルに達する。衛星は三菱電機鎌倉製作所(神奈川県鎌倉市)の倉庫で、宇宙に飛び立つ日を静かに待っている。

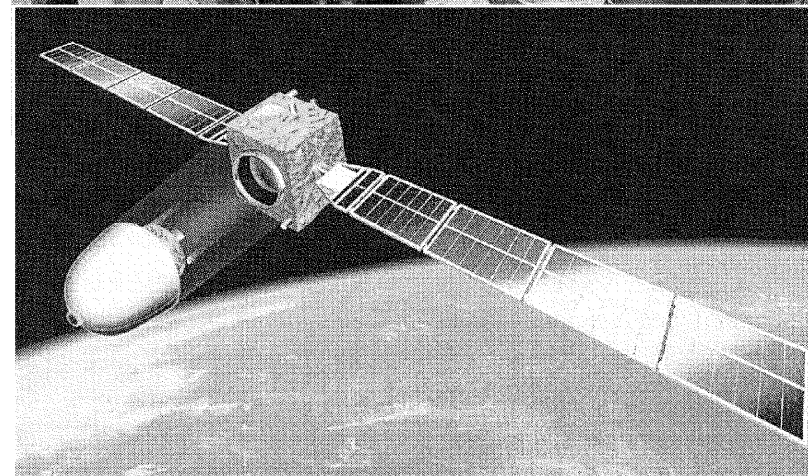
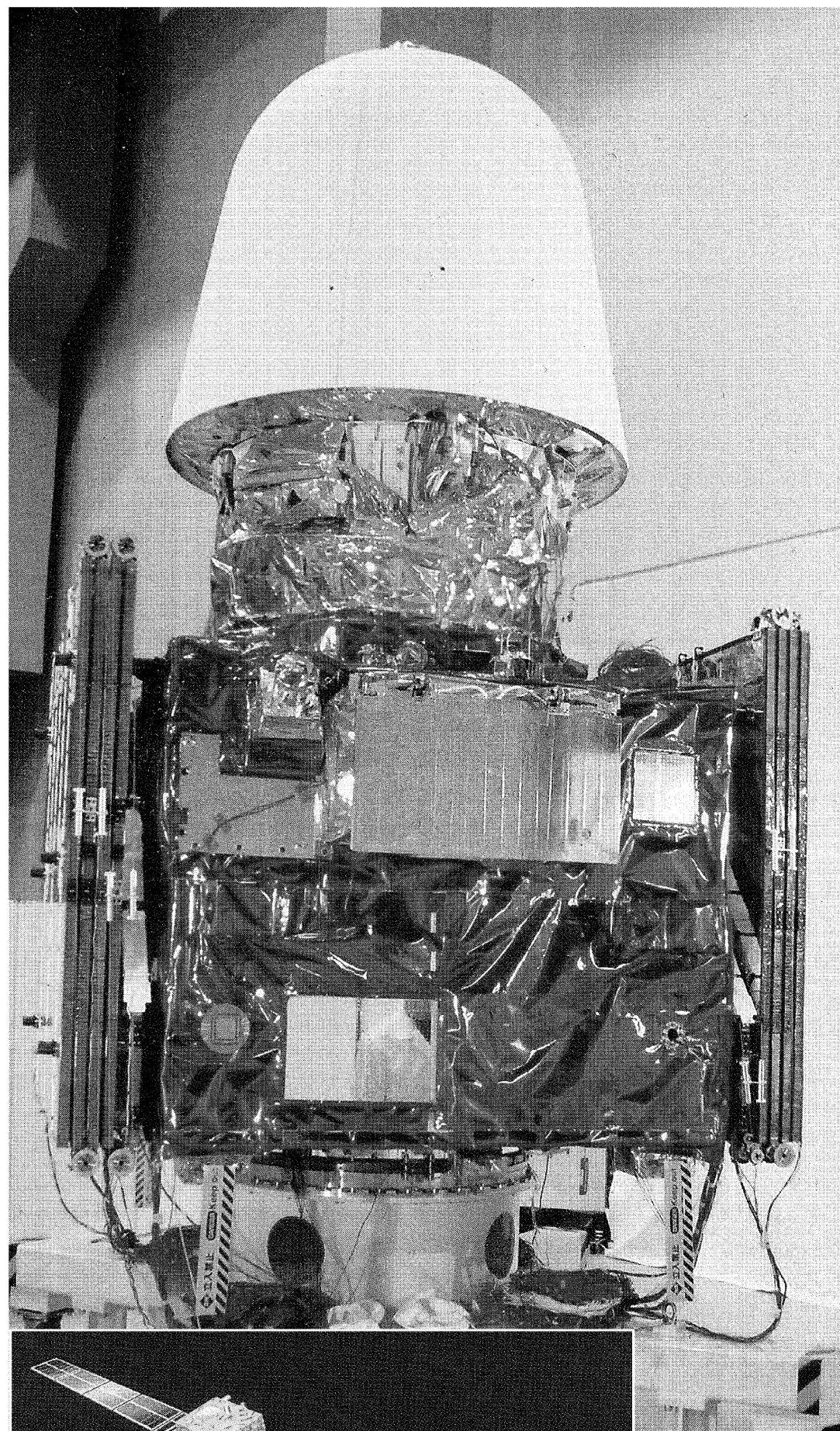
宇宙空間で高温超伝導材料を製造 カギ握る大樹町での実験成果

航空宇宙関連の技術開発は、さまざまな分野が連携し、地道な実験を積み重ねて進められる。そこには何百、何千人もの人がかかわっている。そして広大な実験フィールドとして十勝の大樹町を訪れ、次なる技術開発のステップを踏んでいる研究者は少なくない。

(文・目黒精一、写真・山下僚)

「USERS」今夏打ち上げ

実用型無人宇宙実験システム



今夏、打ち上げられる無人宇宙実験システム「USERS」。上部のリエントリーモジュールの帰還実験は大樹町で行われた

「USERS」のイメージ図。羽を広げると横幅は15.5メートルを超える(財団法人・無人宇宙実験システム研究開発機構提供)